

海外派遣報告： シンガポールにおける 大学図書館の研究支援

2017年6月

一橋大学 学術・図書部 学術情報課

寺島 久美子

印象に残った言葉

- “Showcase”
- 名詞：ショーケース、陳列棚、披露の場
- 動詞：ショーケースに飾る、展示する
特に目立つように示す



- 図書館は、大学のショーケース。
- 「見せる」「可視化する」ことを意識している。

調査計画の概要

- テーマ:シンガポールの大学における研究支援

訪問日	訪問先	調査対象
11/14(月) ~15(火)	シンガポール国立図書館、 公共図書館	学術情報に関する政策、 大学図書館との連携について
11/16(水)	南洋理工大学(NTU)	Research Commons、 オープンアクセスの義務化、 研究データ公開について
11/17(木)	シンガポール国立大学(NUS)	Research and Scholarly Communication Unit について
11/18(金)	シンガポール経営大学(SMU)	研究マネジメントツール(Converis)、 人文社会科学系大学の研究支援

南洋理工大学 (NTU)

- Nanyang Technological University
- 1991年に創立
- 場所: シンガポール西部 ナンヤン
- 学生数: 約33,000人
- 大学ランキング: QS 13位
THE 55位 (アジア2位)
- 学部構成: 5つのCollege、1つのSchool

南洋理工大学图书馆

- 8つの図書館、冊子85万冊、電子69万冊所蔵
- 中央図書館: Lee Wee Nam Library



NTUでの調査トピック

1. Research Commons

2016年建設中、2017年の夏に完成予定

2. Open Access Mandate

2011年8月に発表。オープンアクセスを義務化

3. Research Data policy

2016年4月に発表。研究データ管理の方針策定

NTUでのインタビュー

- Ms. Dianne Cmor
(Acting Director)
- Ms. Men Yali
(Senior librarian,
Scholarly Communication
Division)
- Ms. Goh Su Nee
(Senior Assistant Director,
Scholarly Communication
Division)





(1) Research Commons (工事中)



普通の閲覧席
(ほぼ満席)



Research Commonsの狙い

- 研究の資源、過程、成果を「見せる」場所
 - Ebook Gallery: 電子リソースを可視化
 - Connectiam: 寛ぎながらアイデアを分かち合う
 - Research Showcase: 研究成果を発表
- 
- 知的刺激を与え、利用者の研究意欲を高める
- 
- 「南洋理工大学で研究したい」と思ってもらおう！

(2) Open Access Mandate

- 2011年にオープンアクセスを義務化
 - 副学長メッセージとしてトップダウンで決定
 - NTU研究成果を「見える化」
- 機関リポジトリ(DR-NTU)への登録が必須
- 図書館が登録や著作権処理をサポート

義務化のメリットと課題

- メリット
 - リポジトリについて研究者から問合せが増えた
 - オープンアクセスにする利点を積極的に説明できる
 - フルテキストの登録件数が増加した
- 課題
 - 義務といっても罰則はない。登録しない人もいる。
 - 現行のリポジトリがユーザーフレンドリーでない
 - まだまだ説明と広報が必要

(3) Research Data Policy

- 2016年4月にResearch Support Officeが発表
 - 図書館がドラフト作成、研究部門・IT部門と調整
 - NTUはすべての研究データを所有する
 - 研究データ最終版は、論文が出版されるまでにNTUリポジトリに登録する
- 研究データ管理が求められる助成金の増加
 - NTU: 助成金採択率を上げたい
 - 大学として研究データを管理する必要

NTUの研究データ管理

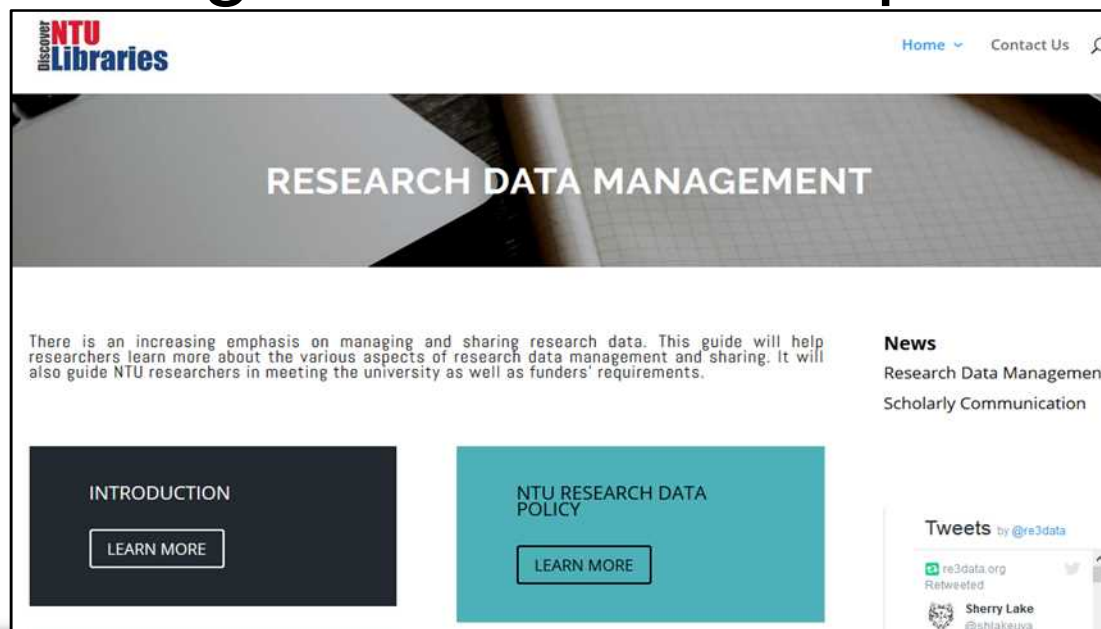
- Research Data Management Planを大学のResearch Officeに提出するのが義務
- 提出されない限り、Research Officeは研究プロジェクトの資金を使用可能にしない





- 「Data Management Planってどう作るの？」という研究者からの問合せが増えた
- 図書館が研究データ管理のサポートを担当

NTU図書館によるサポート

- 研究データに対応した機関リポジトリを構築中
- 研究者へのワークショップを開催
- Data Management Plan Templateの提供



なぜ図書館がここまでするの？

- 図書館の役割：研究と教育の支援
 - 今まで、資料提供が研究支援の大半を占めていた
 - 電子化で、資料提供のウェイトが相対的に低下
- 研究サイクルの全てを支援しよう！
 - オープンアクセスへの関心増加、大学の方針策定
- 研究データ管理にも積極的に関わろう！

シンガポール国立大学 (NUS)

- National University of Singapore
- 1980年に創立
- 場所: シンガポール南西部セントリッジ
- 学生数: 約38,000人
- 留学生割合: 約30%
- 大学ランキング: QS15位
THE 26位 (アジア1位)
- 学部構成: 11学部(文系4・理系7), 3大学院



シンガポール国立大学図書館

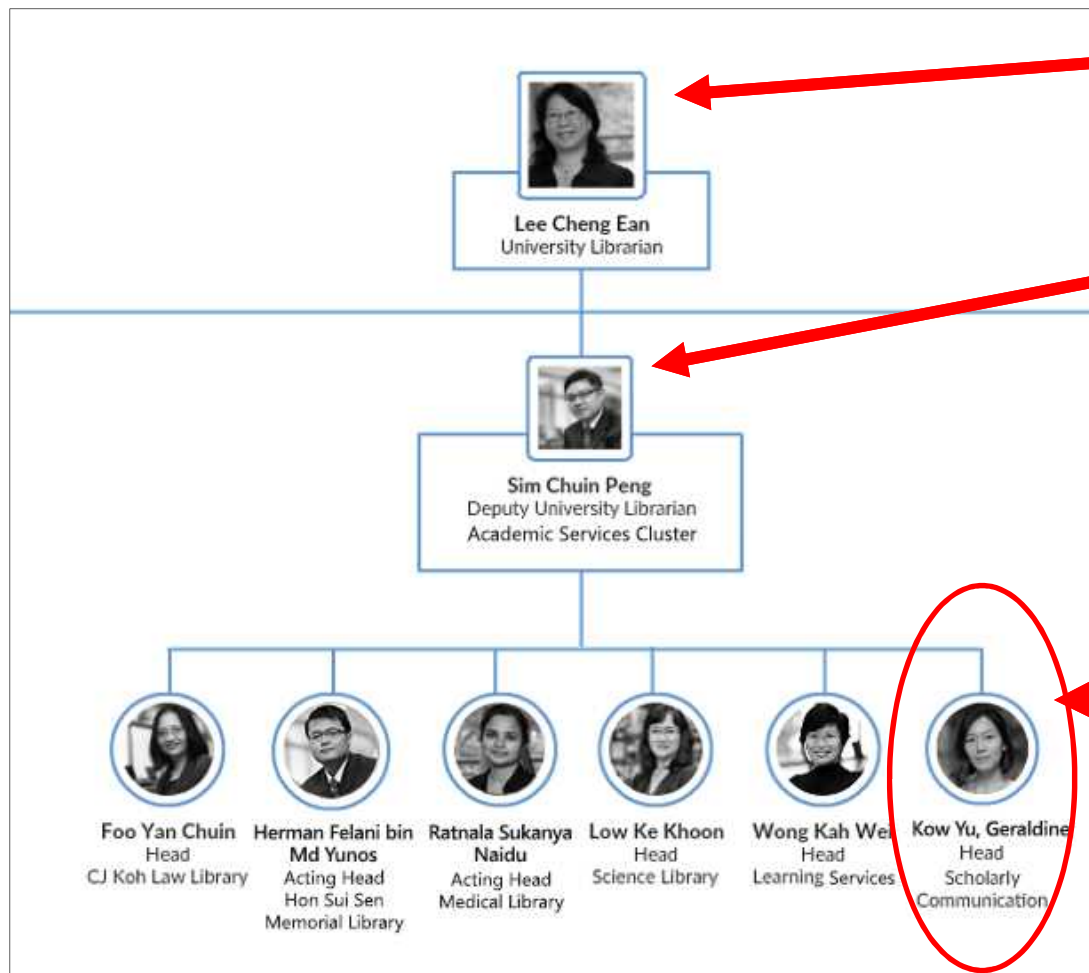
- 7つの図書館、300万冊を所蔵
- 中央図書館: Central Library



NUSでの調査トピック

- Research Support and Scholarly Communication Unit (Scom)
 - 学術コミュニケーションを支援する館内組織
 - University Librarian率いる3つのチーム
 - Bibliometric Team
 - Publishing Resource Team
 - Digital Scholarship Team

RS & Scomの位置づけ



館長

副館長
(Academic Service
担当)



Scomの
新旧Head



NUSでのインタビュー

Ms. Tan Geok Kee (Head,
Scholarly Communication)

Ms. Kow Yu, Geraldine
(New Head, Scholarly
Communication)

Mr Feng Yikang (Lead,
Digital Scholarship Team)

Dr. Sim Chuin Peng
(Deputy University
Librarian)

Mr. Jonathan Pradubsook
(Lead, Bibliometric Team)

Ms Chew Shu Wen
(Lead, Publishing
Resource Team)



Scom設置の経緯



- 研究の全段階のサポートを目指す
 - 研究、出版、流通、保存、評価...を支援！
- 図書館も研究評価の向上に貢献
 - 例) 著者最終稿をリポジトリに載せるよう推奨
 - Google Scholarに表示される
 - 研究成果の可視化、被引用数の向上
- 大学ランキングは、別の部署で担当
 - Deputy President of Research and Technology

Bibliometric Team



Lead: 1名
Librarian:
5名

- 研究インパクトの測定
- 引用分析レポートの作成
- 研究業績リストの編集・検証
- ScopusやWeb of Scienceを使った引用メトリクスのワークショップ開催
- 教職員、研究者の求めに応じて情報提供

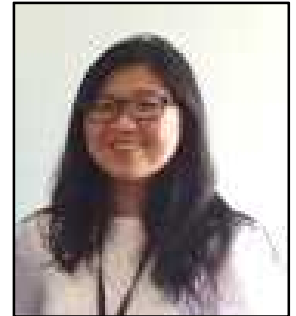
自分の論文は引用されてる？

どの雑誌に投稿すればいいの？

ライバル大学の研究業績は？

Publishing Resource Team

- 出版支援、オープンアクセス促進
 - 出版社と共同ワークショップの開催
 - オープンアクセスウィークのイベント企画
- リポジトリ (Scholarbank@NUS) の広報
 - Research Visibility Workshopの開催
 - よくある質問 (FAQ) リストの作成
 - リポジトリの運営は図書館IT部門が担当



Lead: 1名
Librarian:
5名

Digital Scholarship Team

- デジタルデータを長期的に保存・管理・活用
- データを使って何ができるか模索
 - Digital Humanities Project in NUS
 - 地図情報と歴史情報を活用した
“Maps of Origin”
- メリット：新しい研究支援の可能性
- 課題：周囲への説明、著作権処理



Lead: 1名
Librarian:
3名

例) Maps of Origin

[NUS Libraries](#) > [Singapore Chinese Clan Associations](#) > Locality-based Chinese Clan Associations

SHARE A A A

INTRODUCTION

LOCALITY-BASED CHINESE CLAN ASSOCIATIONS

KINSHIP-BASED CHINESE CLAN ASSOCIATIONS

INDEX - LOCALITY

INDEX - KINSHIP

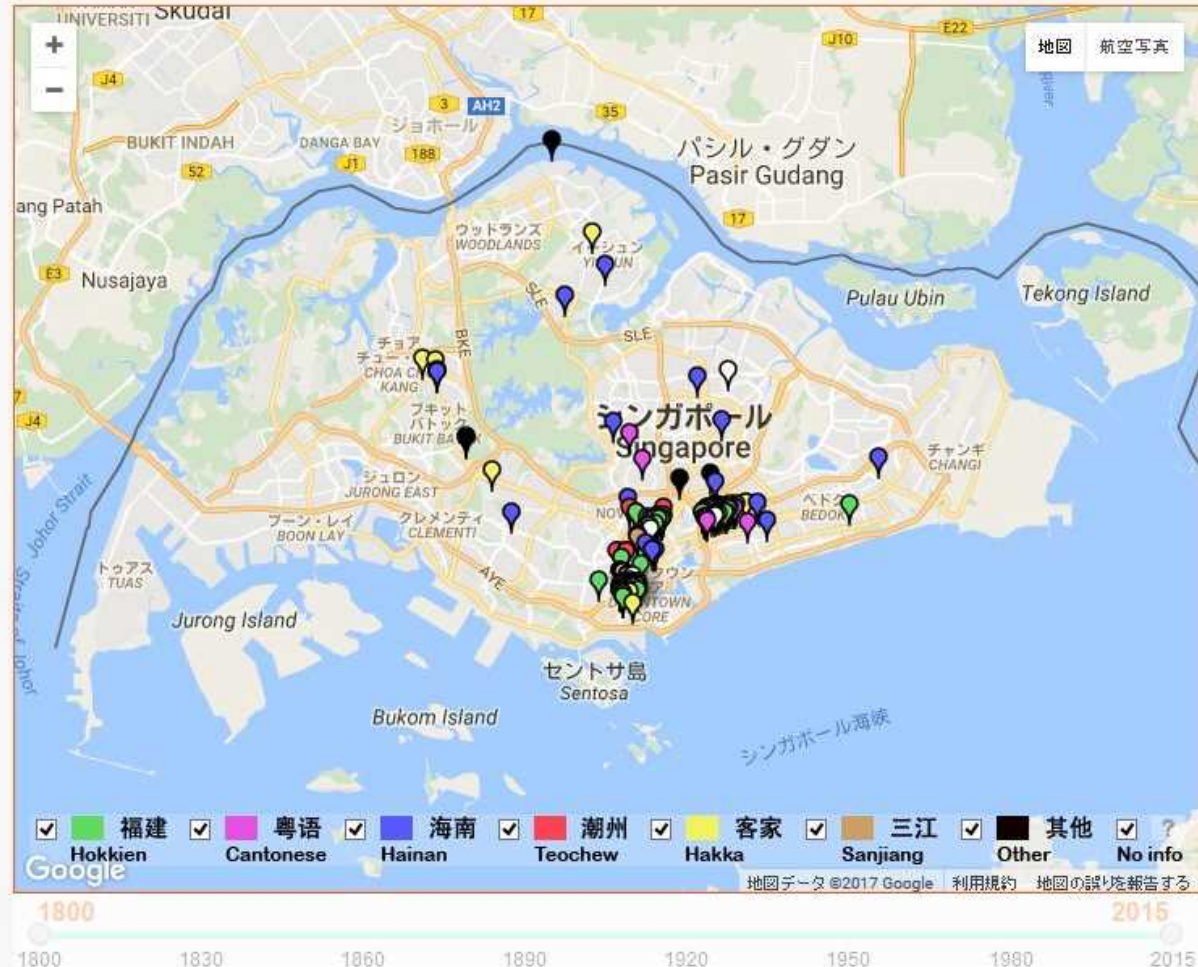
INDEX - BY NAME

INDEX - BY YEAR

REFERENCES

Other Links

- Scholarly Communication
- Chinese Library
- Historical Documents of Chinese in Southeast Asia
- Singapore Places of Worship



Scomの現状と課題



- 組織の名前はあまりアピールしていない
- 個々のサービスを知ってもらうことを優先
- 各種ワークショップで教職員の反応を収集
- メリット: 先進的な取り組みをすることで、
図書館が注目・活用してもらえる
- 課題: オープンアクセスは義務ではない
研究データへの対応はこれから

シンガポール経営大学 (SMU)

- 2000年創立、シンガポール中心部に位置
- 6つの学部(人文社会科学系)、学生数9000人
 - Business
 - Accounting
 - Economics
 - Law
 - Social Science
 - Information Systems



シンガポール経営大学図書館

- 1つの図書館、
36万冊を所蔵
- 中央図書館：
Li Ka Shing Library



SMUでの調査トピック

- 研究マネジメントツール「Converis」
 - トムソン・ロイター(当時)の研究情報管理システム
 - 2014年にアジアの大学図書館で初めて導入
 - SMUの機関リポジトリ(InK)と連携
- 人文社会系の大学として、
どうオープンアクセスを推進している？

SMUでのインタビュー

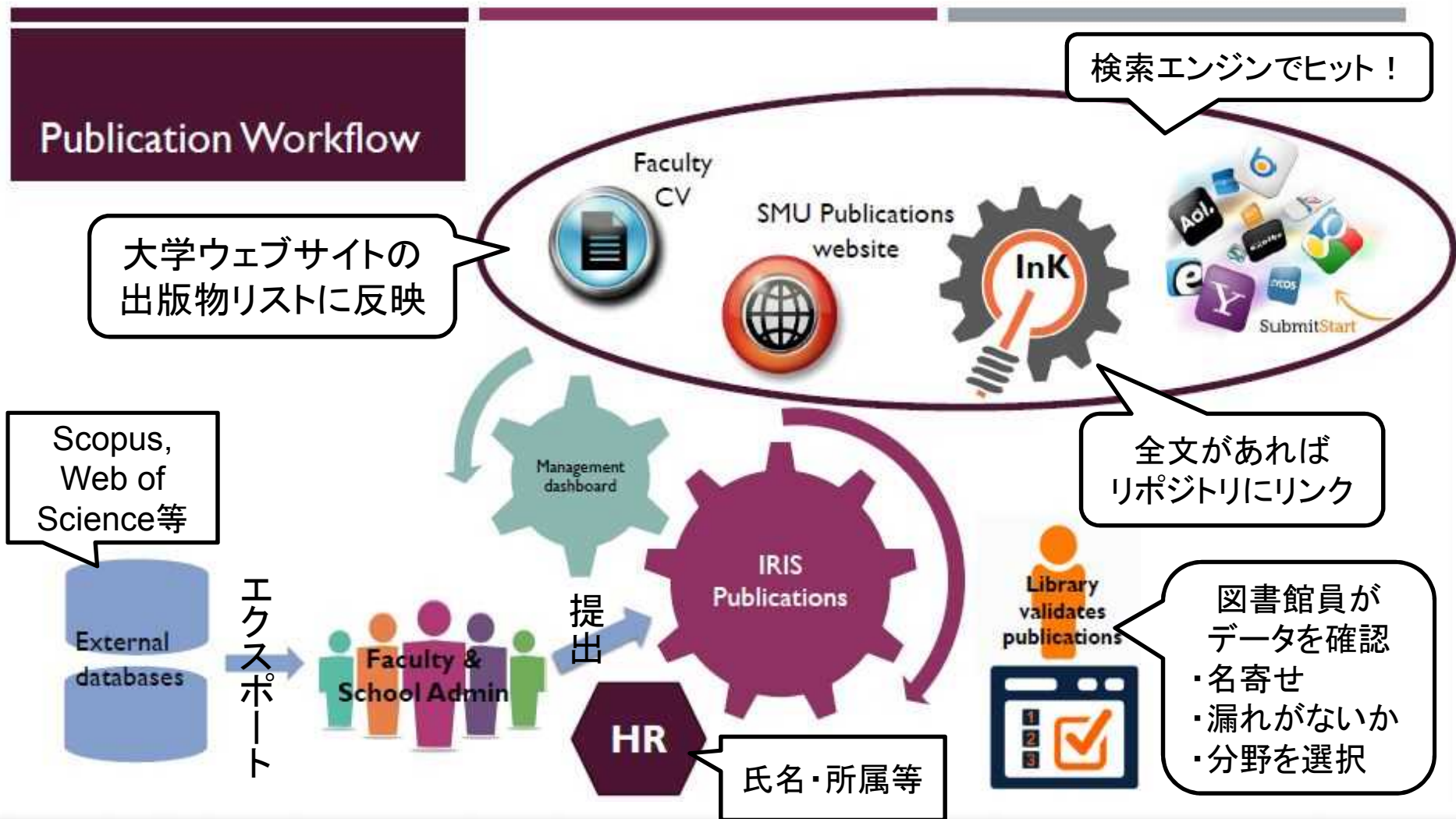
- Ms. Gulcin Cribb
(University Librarian)
- Ms. Yeo Pin Pin
(Head,
Scholarly Communication)
- Ms. Yuyun Wirawati Ishak
(Head, Information Services)



研究マネジメントツール「Converis」

- Integrated Research Information System (IRIS)と学内では呼称
- バラバラだった以下を統合、IRISで管理
 - 機関リポジトリ
 - 研究助成金システム
 - 大学ウェブサイトの出版物リスト
 - 研究者の研究業績リスト

Converis (IRIS) の仕組み



Converisのメリット

- 研究情報の登録から公開までを効率化
 - ➔ 公開促進、登録数の増加
- 外部のID (Scopus IDやORCID等)と連携可
 - ➔ 研究情報がより豊かで正確に
- 出版物リストや研究業績リストの様式を統一
 - ➔ データ抽出や分析が容易に
- 研究者が自著のダウンロード数等を確認できる
 - ➔ 「もっと登録しよう」という動機づけ

Converisの現状と課題

- Pin Pinさん含め4人でConverisを運営
 - ➡ ベンダーとの調整、問合せ対応などが負担
- オープンアクセスは推奨だが義務ではない
 - ➡ 「なんで登録するの？」という研究者も多い
- 研究データへの対応はこれから
 - ➡ 現在、Research Data Policyを策定中



印象に残ったこと

3大学のオープンアクセス

NTU
(理系)



義務です！登録しないと
研究費は出ません！

NUS
(総合)



研究評価向上のために
できるだけ登録してね！

SMU
(文系)



こんなに簡単になったから
どうか登録してください！

シンガポールの優れた点

- どの大学も、オープンアクセスの状況や海外の大学の事例をよく情報収集している。
- その上で、自分の大学ではどうするかを判断。
- 成功／失敗をハッキリ評価する。
- 変化への対応が素早い。



- 先進的できめ細かい研究支援サービスを実現

発表は以上です

国立大学図書館協会の皆様、
関係者の皆様に
心より御礼を申し上げます。

